



北米ホーリネス教団
オレンジ郡
キリスト教会
「週報」

2012年の努力目標

1. 朝の15分の祈りを大切に。
2. 1日2章の聖書日課に励む
3. 日ごとの写教に励む
4. 定期の祈り会に参加
4. 聖書研究・家庭集会への参加
5. 礼拝欠席の時は牧師に連絡を。

◎集会案内◎

日曜 礼拝 : 9:30~10:45am
 コヒーアワ : 日曜日 10:45~11:15am
 聖書の学び : 日曜日 11:15~12pm
 みふみ会 : 水曜日 10am
 定例祈禱会 : 水曜日 7:30pm
 早天祈禱会 : 土曜日 7am
 家庭集会 : 各地区に2箇所
 牧 師 : 杉村 幸 (日語部)
 益田デーロ (英語部)
 電 話 : (714) 827-6244 (教会)
 (714) 527-1456 (牧師館)
 E-Mail : sugimura1950@gmail.com
 教会ホームページ : www.occc.org
 教会所在地 : 4872 Bishop St.
 Cypress, CA 90630

□石 叫□

◎石 叫◎

「教会セミナー」

先週の9日(月)から二日間にわたってオンタリオにあるホテルで教会セミナーが行われた。今回は夏季修養会でご用された横山幹雄先生を主講師として行われたもので、北加の牧師や近隣の牧師たち十名ほどが集まった。この種のセミナーは私にとっては加藤常明先生の説教塾以来であり、修養会とは違って牧会上のなまの声を聞いて励まされ、祈らされチャレンジを受けたのである。

「マタイ十八・2、4に「イエスは幼な子を呼び寄せ、彼らのまん中に立たせて言われた『よく聞きなさい。心をいれかえて幼な子のようにならなければ、天国にはいることはできないであろう。この幼な子のように自分を低くするものが、天国でいちばん偉いのである』と主イエスは言われている。彼らの「まん中」とあるように、私たちの群れの中で子供たちが中心にいななければならないというメッセージである。これが今回の学びの中で一番心に留まった言葉であった。とかく教会では大人が中心であって、子供たちは隅っこに追いやられてしまっているのが現状である。いったい私たちは今まで何をしてきたのであろうかと問われた時であった。家族と一緒に礼拝に出てこそ教会だというのである。お互いの家族を見ても容易に分かることであるが、食卓でもゲームでもバケーションでも子供たちがその中心にいるではないか。この幼な子欠如の教会に現代の日本人教会が低迷している要因の一つがあるのかも知れない。

横山先生は近代の大説教家のスボルジョンの言葉を引用して「子供が分からない説教を大人が分かるはずがない」とまで言ったという。説教とは彼らにも分かるように話さないと、大人にも通じないという意味なのだ。そこで横山先生の牧会してきた金沢市近郊にある内灘聖書教会は、教会の将来を担う子供たちにフオカスをして伝道してきたのである。その子供たちが五年後、十年後に教会や社会を担って立つ器に成長してゆくからである。つまり将来を見据えてこそ、主イエスの言われた教会の本来の姿だと言えないだろうか。

しかし、アメリカ日系人教会の現状はと言うと、子供たちのための日本語のサンデー・スクールのクラスさえ無いというのがほとんどだ。それだけに家族で教会生活を守るといえるのは難しい。それに成長するにつれて英語部やアメリカ人教会に行ってしまうというのが現状である。その日語部の将来性という点ではまだ光が見えてはない。だが、親は子供たちが自立するまでに養育の責任があるように、日語部の責任もその過程を見守ることにあるのかも知れない。

「オレンジ郡キリスト教会の歩み」

オレンジ郡キリスト教会は一九七七年に発足し、東洋宣教会・北米ホーリネス教団に所属するプロテスタント教会の一つです。北米ホーリネス教団は一九二一年に創立され、現在は日英両語合わせますと二千名を越える会員になります。

私たちの教会は一八世紀に、英国で始まったジョンウエスレーによるメソジスト教会の流れを汲みます。そして他のプロテスタント教会同様、三世紀以来告白され続けてきた使徒信条を、私達の信仰告白といたします。

